

# 広島平和記念式典参加事業

## 2班 グループメンバー

穂高西中学校 佐藤 ふわり

豊科南中学校 中越 滉貴

穂高東中学校 徳竹 芽依

堀金中学校 丸山 幸

明科中学校 三河 唯人

松本大学 平和創造研究会 藤田 達也

## グループの学習テーマ

# 『次の戦争を起こさせないための私たちの取り組み』

○本事業を経て、私たちが感じたこと、考えたことを皆さんと共有し、これからの私たちが平和な世界に向けて何ができるかを考えていく。

## ○学習の着眼点

- ・平和を知る、考えるために「過去」を学ぶ。
- ・学校の授業では学ぶことができない「ヒロシマ」を学ぶ。

## 事業の様子（見学行程）

○8月5日（土）

・広島平和記念公園

⇒原爆ドーム、原爆の子の像、千羽鶴など

・広島平和記念資料館

○8月6日（日）

・広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式  
（平和記念式典）

・広島国際会議場

⇒ひろしま子ども平和の集い



# 平和記念公園





## 2日目 広島国際会議場

# 2日間の学びの中で



○印象に残った展示

○広島で見て、聞いて、  
感じたこと

○中学生の視点から紹介  
してもらいます。



# 原爆ドーム



- ・原爆ドームの壁が思ったより綺麗だった

⇒もっと焦げていたり、煤がついていると思っていた。

- ・時の流れを感じた。

# 焼け跡に立つ少女



・資料館で最初に展示されている女性の写真

⇒1番最初に見た写真だったため、印象深く映った。周囲の写真が、風景や全体を映しているものが多いのに対し、人物に焦点を当てた写真であり、痛々しい感じが伝わった。

平和記念資料館 展示写真

(1945年(昭和20年)8月9日 毎日新聞社 国平幸男記者 撮影)



# 被爆から7年後に発掘された遺骨



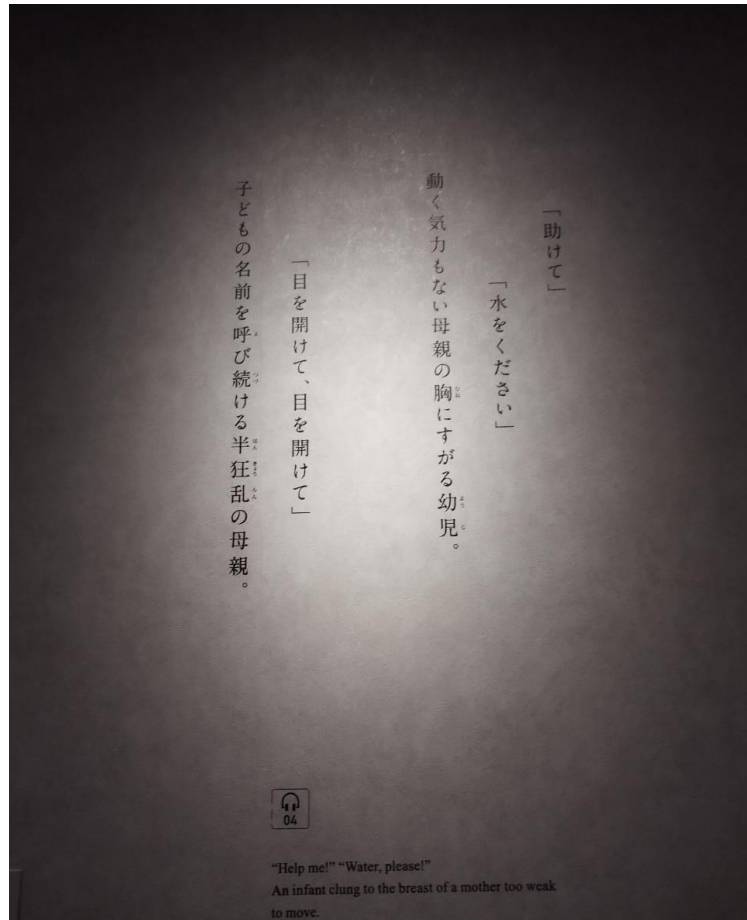
## ・大量の白骨写真

⇒インパクト、雰囲気がすごかった。こんなにも多くの人の命を一瞬で奪った原爆の威力と恐ろしさを感じた。

平和記念資料館 展示写真

(1952年 (昭和27年) 7月30日 安芸郡坂町 中国新聞社 撮影)

# 原爆の証言 言葉で残す

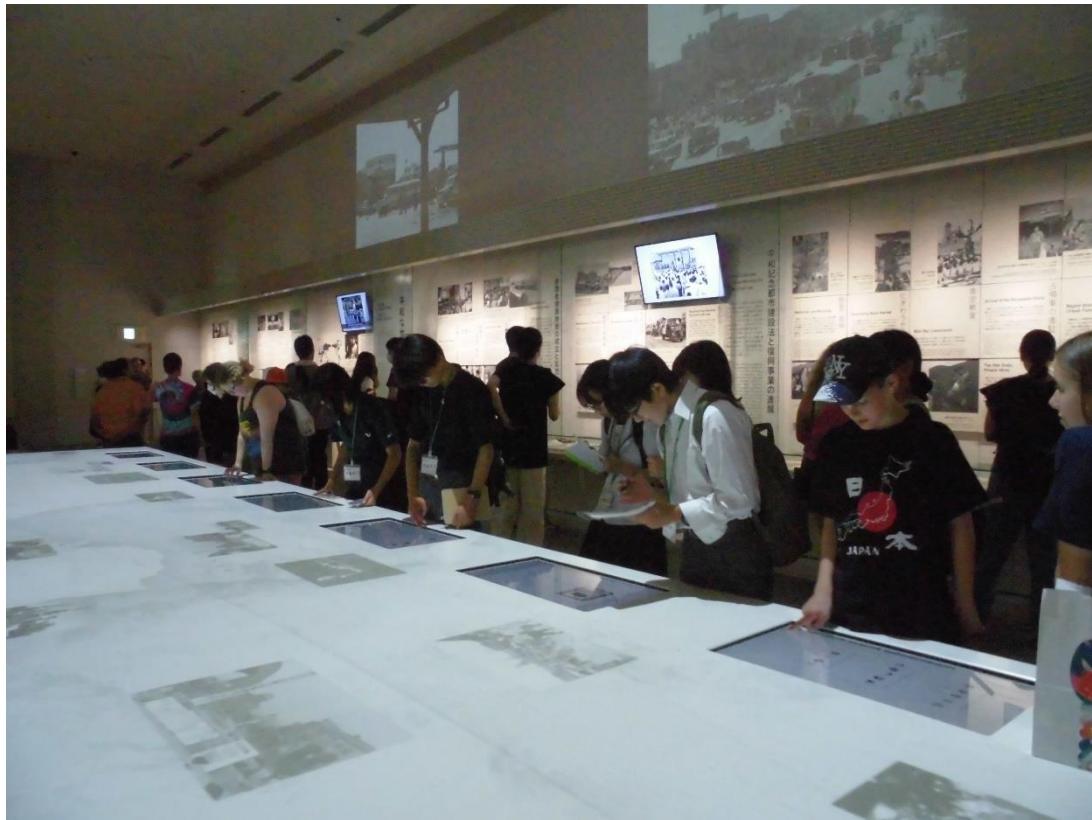


・文字の記録が多く残されている

⇒絵や写真よりも言葉の証言が多く残されているのが意外だった。

平和記念資料館 展示資料  
(平和文化 第53号より)

# 原爆を学ぶ海外の人の姿



・多くの外国人の方たちが資料館、平和公園に訪れていた。  
⇒熱心に観覧している人が多く、過去の原爆について知ろうとしている姿に、世界的な平和意識の高まりを感じた。



## 広島での学習の成果

- ・ 1945年中に14万人もの人が亡くなった。

⇒原爆投下から4か月という短い期間にこんなにも多くの方が亡くなった事に衝撃を受けた。

- ・ 日本人以外にも来日していた外国人の方も被害を受けた。

⇒アメリカからの捕虜やアジアからの留学生なども当時の広島で生活していた。そうした人々の命も原爆が奪った事を知った。

# 広島での学習の成果

- ・ 広島が世界で最初の被爆地であることは変わらない。  
⇒ 長崎が最後の被爆地になるように努力すべき。
- ・ 五感で学ぶことが重要  
⇒ 実際に見てみないと分からないことがたくさんあった。
- ・ 平和の灯（ともしび）  
⇒ 灯が消える（核兵器が無くなる）世界への道を切り拓いていく。

ヒロシマを学んで  
今、私たちができること